

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 百合が原ふぁみりあ1・2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-13 (電話) 011-775-7580		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年4月3日

【情報提供票より】 (平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 15年 11月 21日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16人 常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 3,500 円	その他の経費(月額)	光熱費: 4~9月: 300円 10~3月: 400円
敷金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 250 円	昼食 250 円	
	夕食 280 円	おやつ 円	
	または1日当たり 780 円		

(4) 利用者の概要 (3月1日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	5名	要介護2	3名
要介護3	5名	要介護4	2名
要介護5	3名	要支援2	
年齢	平均 86歳	最低 77歳	最高 100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 札幌優翔館病院 たにぐち歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム百合が原ふぁみりあ」は、福祉サービスを総合的に行う社会福祉法人が、5カ所のグループホームの1つとして平成15年に開設したホームである。百合が原公園の近くにあり環境に恵まれたところに立地している。広い敷地内にある建物は、ニュージーランドの木材をふんだんに用いた木のぬくもりと香りがあり、全体的に重厚な造りで心地良く過ごせる空間となっている。開設5年が経過し、管理者と職員は、利用者一人ひとりの身体機能の状況により、対応のバランスに配慮し、何ができるかを考えながら、真摯な姿勢で向き合っている。利用者は広々とした環境で、夏には中庭の畑で花や野菜を育て、ベランダで日光浴を楽しみ、それぞれに自分のペースで過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での取り組みについては、家族からの意見や要望についても記録にして対応、共有し、同業者間の交流については、法人内にある8つのユニット間での交流の機会を検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の自己評価の結果を参考に、ミーティングで項目ごとに意見を交換し、全員で取り組んだ。管理者はその内容をまとめ、会議で確認している。職員は自己評価を通し、利用者が、もっと外に出て地域住民と関わる大切さを再認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催し、入居状況や外部評価結果の報告、災害時における近隣の協力要請などを行っている。会議では認知症、車いす対応、食事についての実情を説明し、利用者の生活状況や事業所の対応への理解が深まりつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者、職員は家族の意見を貴重なものと捉え、対話の中で家族の要望などを聞き出す努力をしている。苦情があった時は、家族、法人の統括管理者、管理者で会議を持ち、早急に解決するよう努めている。内容と対応を記録しミーティングで伝え職員とも共有している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会行事の夏祭りに参加しているが、開催場所が遠くなり、利用者の身体状況からも全員での参加が難しくなっている。住民とは散歩中での挨拶や公園に遊びにきた子供との会話を楽しんでいる。今後は地域住民やボランティアと関わる機会を多く持てるような取り組みを考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人グループホーム共通の理念、4つの緩和を目指す項目の中に、「地域とともにあること」が掲げられている。その内容を「ふあみりあ」の頭文字を使い、分かり易い言葉で事業所の目標をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人共通理念と事業所目標をホールに並べて掲示している。目標については、玄関、居間にも掲げ、本人・家族の意向を汲み取っているかをミーティングで話し合っている。職員はカードにした理念を携帯し、対応に迷った時は読み返している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事の夏祭りに参加しているが、開催場所が遠くなり、利用者の身体状況からも全員での参加が難しくなっている。総合学習で小学校からの来訪がある。住民とは散歩中での挨拶や、公園に遊びにきた子供との会話を楽しんでいる。	○	車椅子利用の人も参加できる機会を多くつくり、ボランティアとの交流を持ちながら町内会行事への参加や、事業所内の行事に地域の人を招くなど、地域住民と楽しむ場面づくりに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価の結果を参考に、ミーティングで項目ごとに意見を交換し、全員で取り組んだ。管理者はその内容をまとめ、会議で確認している。職員は自己評価を通し、利用者がもっと外に出て地域住民と関わる大切さを再認識する機会になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催し、入居状況や外部評価結果の報告、災害時における近隣の協力要請などを行っている。会議では認知症、車いす対応、食事についての実情を説明し、利用者の生活状況や事業所の対応に理解が深まりつつある。	○	参加案内の工夫などによって、率直な意見交換が得られる場としての会議の持ち方に一考を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の代表として、法人の統括管理者が書類の提出等で訪問し、市の担当者と連携をとっている。管理者は市・区の担当者と直接に話し合うことはないが、費用軽減も含め家族とおむつ支給申請や介護認定更新など話し合い、家族と協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の近況を報告し、健康状態については往診時の記録を家族に渡している。その際に、職員の交代なども報告しているが、情報が洩れることもあるので、職員の状況を知らせる掲示板の工夫を検討しているところである。	○	職員の交代は本人はもとより、家族の気掛かりなことなので、検討されている掲示板の工夫に期待したい。また、事業所全体、個人の暮らし、職員の異動などを載せたホーム便りの発行など、可能なところでの取り組みにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は家族の意見を貴重なものと捉え、対話の中で家族の要望などを聞き出すように努めている。苦情があった時は、家族、法人の統括管理者、管理者で会議をもち、早急に解決している。内容と対応を記録しミーティングで伝え職員とも共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者に影響を与えないよう、法人内のグループホーム間での異動は極力避けている。離職の際、利用者の気持ちを考え理解のできる利用者には、辞める職員から事前に話して貰っている。職員間で情報を交換しながら注意深く利用者を見守り、居なくなった寂しさなどに配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の講師を招く法人全体としての職員研修計画があり、均等に学べるようにしているが、年に1回程度の参加のため、勤務の調整などを検討している。外部研修では職員の経験年数により、介護スタッフレベルアップ、認知症介護実践者研修などに参加し、資料の閲覧や報告書で内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市および北区グループホーム管理者連絡会には職員も参加し、情報交換や交流、勉強会で学んでいる。同業者の関係づくりに向けて、まず法人内にある8つのユニット間で交流をする場を検討しているところである。	○	法人内グループホーム間での管理者、職員の交流や訪問などを通し、相互に高め合うような機会に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人、家族の見学を勧め、本人が来れない時は、管理者が訪問している。何度も見学し、本人が納得してから入居になるように勧めている。入居後は関わりを多くし、自由に生活できるように見守り、本人の思いを探り徐々に慣れて貰うように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の前職、嗜好、習慣などを会話の中でそれとなく聞き、出来ることを引き出し、自信が得られるようにしている。職員は畑作、花、書など、得意なことを教わり、昔話や昔使っていた物の名前もよく教えて貰う。何気ない利用者の一言で利用者の優しさに触れ慰められることが多い。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を汲みとるため、分かりやすい具体的な聞き方で、本音を把握するように努めている。意思表示が困難な人には家族の情報を基に、問いかける中で表情や仕草を見て家族、職員と情報を交わし、その思いを探っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始に際しては、家族の情報、主治医の診断書、訪問看護師の情報、職員の観察などをもとに暫定ケアプランを作成して対応する。毎日の申し送り簿に記録しながら経過観察し、1ヶ月以内にモニタリングを行い、介護計画を作成する。介護計画は可能であれば本人も同席し、家族に説明して了解を得るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに、毎月のモニタリングをもとに見直しを行うが、健康状態の変化、事故発生などがあれば随時見直し、追加や改定を行う。見直した計画は、家族が来訪した折、関連する診療情報などの書面も添えて話し合いをする。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物、緊急の時には事業所の車輻で送迎している。医療連携体制による往診や訪問看護により、健康維持・体調不良時の早期対応が可能になり、入院や重篤化を回避している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始の際に希望する医療機関を確認し、希望に沿って対応している。協力病院の医師の支援により、それぞれのかかりつけ医との連携が図られている。協力病院以外を受診する時は付き添う家族を通じて医師との間で情報を交換している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針および見取りの指針を文書化し、利用開始の際に家族・本人と確認を交わしている。方針は主治医、看護師、職員間でも確認し、状態の変化に応じて繰り返し話し合い、再確認する態勢になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の声かけや介助の際、正しい日本語、聞き苦しくない言葉遣い、静かな声、周囲の利用者に不用意にあからさまにならない、などについて注意を喚起し、指導している。記録類は事務所の書庫に収納し、必要時以外持ち出さないよう、配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は各利用者の気分や体調に応じて自由な時間の過ごし方をしてもらっている。日課の体操やゲームへの参加も本人の意向を確かめながら無理のないように誘っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が交代で、利用者の希望を取り入れながら1週間単位で作成している。食材の準備、簡単な包丁作業、下膳、お茶入れなどは利用者と共にやっている。食事は職員も同じテーブルにつき、談笑しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に4回、午前と午後に入浴時間帯を設定し、各利用者週2回以上入れるようにしている。入浴を億劫がって拒む利用者もいるが、気分や体調を見計らいながら誘うタイミングを工夫することによって、結果的に喜んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付けに関するもののほか、自身の身の回りのこと、居間の飾りつけ、畑仕事など、それぞれの得意を活かした役割を持って張り合いのある生活を送っている。歌、書、野球観戦などを楽しんでいる利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	機能低下が進み、重度の介護状態の利用者が多くを占めるようになる中でも、定期的な外出の機会を作る努力をしている。眼前に広がる百合が原公園や裏の小さな公園への散歩、買い物、図書館、外食などの機会を設け、車椅子もいとわず外出に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠をしているが、日中は施錠せず、内玄関のセンサーと職員の見守りで安全を確保している。徘徊傾向のある利用者はおらず、外の様子が気になり、あるいは家族の来訪を待ちわびて外をのぞく程度なので、さりげなく声をかけて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災を想定した、通報、避難、消火の訓練を、自主的に実施している。1回は昼の想定、もう1回は夜間想定である。運営推進会議を通じて近隣の協力も依頼している。	○	現在消防署は参加していないが、近く参加の予定とのことなので、実現を期待したい。さらに進んで近隣住民の参加、利用者の参加も検討を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	美味しく食べてもらうことを最も重視している。食事摂取量を全員記録し、水分摂取量は不足のないよう、生活の様子を観察し、体調により必要な人については、個別に記録している。体重測定や血液検査で栄養状態を把握し、医師の助言を受けている。	○	水分摂取量については、体調の如何にかかわりなく、全員について記録することを期待したい。また将来、食事の業者委託化によって専門的な栄養管理も検討中とのことなので、その実現に期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々としたスペースを有し、天井からの採光と大きな窓で爽やかな気分を誘っている。季節ごとの飾り物、大きな日めくり、時計などを配し、時節、時間の感覚を刺激する配慮もなされている。壁の装飾や置物は利用者手作りながら精巧な、芸術性を感じさせるものも少なくない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室にトイレと洗面所が設置され、利便性が高い。安心して落ち着いた生活を送るためには使い慣れたものが有効であることを家族に説明し、馴染みの家具、テレビ、仏壇、人形、写真などが持ち込まれ、家庭らしい雰囲気が作られている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。